

特別の教育課程の編成の方針

LCAきたかる森のインター小学校は、子どもたちの個性を活かしながら社会に貢献し、世界を舞台に活躍できる人間の育成を行う教育課程特例校です。特例校としてアクティブイマージョン教育を掲げ、文部科学省が定めた学習指導要領に則った教育を行います。北軽井沢の豊かな環境で自然の素晴らしさを知る機会や、各界で活躍する「本物」に触れる機会など、さまざまな体験活動も豊富です。校舎内に本物の絵画を飾ったり、国際社会の基礎教養の源流に触れるギャラリー・クラシコを設置したりするなど、日常の中の様々な場面で子どもたちの成長の後押しをしていきます。

【教育課程特例校とは】

学校の特色を生かし、より効果的な教育を実施するため、特別の教育課程を編成して教育を実施することが認められた学校のことです。文部科学省へ申請し、審査を受けた後、指定されることになります。

1, 特例の適用開始日

令和8年4月1日(構造改革特別区域認定による特例の適用開始日:令和8年4月1日)

2, 特例の教育課程の概要

- ① 英語科、ふるさと科、生き方科の設置
- ② 原則として各教科の授業(国語科、算数・社会科・理科・道徳の一部を除く)を英語で行う

3, 特別の教育課程を編成して教育を行う理由

LCAきたかる森のインター小学校が、通常の学習指導要領の枠を超えた「特別の教育課程」を編成する理由は、「地域の豊かな資源」と「グローバル教育」を掛け合わせ、これからの時代を生き抜く子どものWell-being(幸福)を実現するためです。

(1) 英語を「教科」として暗記するのではなく、「道具」として機能させるため

本校では、算数や理科、図工などの他教科を英語で教える「イマージョン教育」を実践しています。英語を学ぶのではなく、英語「で」思考し協働する体験を日常化させるためには、既存の枠組みに縛られない特別の教育課程が不可欠となります。

(2) 地域のリアルな課題や魅力を世界へ発信する力を育むため(新設「ふるさと科」)

北軽井沢という恵まれた環境、そして地域の専門家(ひと)は最高の教材です。

新設された独自の教科「ふるさと科」では、地域の自然や文化、魅力を深く探究します。そして、それを単なる郷土学習で終わらせず、「身につけた英語を使って世界へ発信する」というグローバルな発信力へ繋がります。これは「地域活性化・地方創生」という観点からも特区ならではの明確な理由に基づいています。

(3) 激変する時代の中で、自分を見つめ生き抜く力を養うため(新設「生き方科」)

都市部の忙しい生活から離れ、北軽井沢のゆったりとした時間軸の中で、子どもたちが自分の内面と向き合うための新設教科「生き方科」を設置しています。

自己肯定感を高め、正解のない問いに対して「自ら課題を見つけ、どう乗り越えるか」を考える力を養います。子どもたち一人ひとりが自らと向き合うゆったりとした学びの時間は、従来の教科書をこなすだけの時間割では実現できない特別なカリキュラムとして編成されています。